

ロシア・トップ司令官：もし米がシリアを撃てば、わが軍が 応報する

米国連大使の“脅迫”行動がロシアの応答を呼び出す

【訳者注】ニッキ・ヘイリーの前任者サマンサ・パワーが、同じ国連の場で、ロシアの外務省報道官に向って、「あんた、そんなウソについて恥ずかしくないの」と言い、報道官から「恥ずかしいとはどういうことか教えてあげるから、シリアへおいでなさい、旅費と滞在費は私がつから」と、逆襲された一幕は記憶に新しいが、このニッキさんも相当のツワモノだとわかる。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160920.pdf>

このような女性たちは、羞恥心が全く欠如しているか、「アメリカ例外主義」「ウォルフォウィッツ主義」「PNAC原則」といった、アメリカのゴリ押し・鉄面皮思想に洗脳されているか、どちらかである。これを読めば、アメリカは、化学兵器犯罪の「ニセ旗」を計画していることが明らかで、それが最初から世界にバレようと、全く意に介していないことがわかる（新聞が書いてくれればそれでよい）。集団と個人を貫く自棄症状というべきであろう。

Daniel Newton, www.neonettle.com

March 13, 2018



米国連大使ニッキ・ヘイリーが行動による脅迫をした翌日、厳しい警告が返ってきた。

（訳者：写真は、ゲラシモフ総合参謀長ではないと思われる）

ロシアのトップ司令官が警告を発し、もしアメリカが、ミサイルや発射装置を狙ってシリアを攻撃するなら、特に、ロシア軍人の生命が脅かされた場合には、ロシアがこれに応報する

だろうと言った。

この厳しい警告がやってきたのは、国連アメリカ大使ニッキ・ヘイリーが、ワシントンは、化学兵器攻撃と言われるものについて、シリア政府空軍基地を爆撃したときのように、シリアを“攻撃する用意がある”と述べた翌日のことだった。



Nikki Haley 米国連大使は、ワシントンは、シリアに対し、行動を取る用意があると声明した

フランス大統領エマヌエル・マクロンも同じく、化学兵器がシリアで、市民に対して使われたという「反論できない証拠」が見つかるなら、フランス軍もまた、攻撃の用意があると声明している。<http://www.neonnettle.com/news/3924-emmanuel-macron-france-is-ready-to-strike-syria-s-chemical-weapon-sites>

PressTV 報道：一国連アメリカ大使ニッキ・ヘイリーは、もし国連安保理がシリアに対して行動を起こさなければ、ワシントンは一方的に行動する用意がある、と警告した。<http://www.presstv.com/Detail/2018/03/13/555284/Russia>

同テレビは、「アメリカの計略は、シリア政府軍が化学兵器を使ったという事実と、シリア軍の手による大量市民殺しが明かで、ロシアがそれを支持したという、彼らの証拠を世界共同体に示すことだ」と言った、ロシア総合参謀長ヴァレリー・ゲラシモフの言葉を伝えている。

彼の言明によると――ワシントンは、シリアの首都ダマスカス政府に確保されている地域への、ミサイル攻撃を計画しており、モスクワは、「この兵士たちが、市民に対する政府の化学攻撃と思わせるものを、用意している確かな証拠」をもっている。

ゲラシモフは、この兵士たちは、女性や子供を含む大量の市民たちを、計画された化学攻撃

の犠牲者に見せかけるために、他の地域から東グータに連れてきており、フィルムと衛生ビデオ送信装置は、すでに準備されていると語った。

「この事実は、テロリストから解放され Aftris 村に、化学兵器の実験設備が発見されたことから確認されたものだ」と、ゲラシモフは言った。

しかし、と将軍は付け加えた、「東グータの平和建設行動を妨害しようとする、兵士たちの絶え間のない試みにもかかわらず、このダマスカスの郊外の状況は、安定化の方向へ向かっている。」

月曜日には、シリアの国連使節バシヤール・アル・ジャファリもまた、新しいアメリカの軍事的脅迫を叱責して、ヘイリーのコメントは、テロリストが化学攻撃を行うように仕向けるもので、ダマスカスにとって不利な証拠をでっちあげるものだと書いた。

PressTV 報道：—「米軍の脅迫は、兵士によるガス攻撃をけしかけるものだ」—シリアの国連使節団は、このアラブ国家に対する、アメリカの軍事行動による新しい脅迫は、テロリストによる化学攻撃をけしかけ、ダマスカスに不利な証拠をつくり出すことを意図したものだと言っている。

過去数年間、一触即発の飛び地のような状態だったこの地域は、40 万の人口を擁し、多数の、外国に援助されたテロリスト集団に支配されてきた。特に、いわゆるジャイシュ・アル・イスラム・タクフィリ団と、アル・ヌスラ・フロントがそれで、彼らは現実には、市民を捕虜にし、政府解放軍に対する人間の盾に使ってきた。

シリア軍は、ロシア空軍に支援され、テロ軍団を壊滅するために全面的攻撃を行ったが、それはダマスカス内外の居住地へのモルタル砲攻撃となり、数ダースの住民が死傷した。

ロシアとシリアは、市民が東グータを脱出できるように、回廊を設けたが、この地域に潜んでいた兵士たちが安全な道を砲撃し、脱出を妨げている。・・・

——以上